



第372号

2026年11月1日

編集・発行
春風地区
コミュニティ委員会
(春風公民館)

特集 ふれあい夏祭り 2026

夏休み中の8月1日、春風地域の一大イベント「ふれあい夏祭り」が開催されました。浴衣を着た子どもたちや親子連れが会場を訪れ、地域の皆さんが出店した店は大にぎわい。小さな子どもがお小遣いを入れた財布を握りしめて、お目当ての店へ向かう姿も見られました。暑さの厳しい1日でしたが、日が暮れると少し風も吹き、ちょうちんの明かりの下での楽しいひとときとなりました。

今回の特集では、夏祭りの様子をお届けするとともに、当日『宮っ子』撮影ブースを訪れてくれた子どもたちの笑顔の写真を紹介します。



校庭の防火設備点検の見学も
できました

16時台のイベント



トランペット鼓隊も、ユニホーム姿
で演奏を披露



大きな看板が来場者を迎えます

お祭り本番！



青空の下、息の合った演奏が会場
いっぱいに響きました



ボランティアセンターの能登支援品
も人気でした



大量の焼き鳥と奮闘する浦風地区
スタッフ



夕暮れから夜へ。ちょうちんの明かりがお
祭りを彩ります



どれにする？色とりどりのおもちゃ
を前に、真剣に品定め



ヨーヨー釣りに挑戦中！

春風っ子 夏の笑顔アルバム

今年の夏祭りでは、『宮っ子』編集部も出店し、記念写真ブースを設けて、子どもたちや親子での写真を撮らせてもらいました。元気いっぱいのポーズやはじける笑顔をパシャリ。遊びに来てくれてありがとう！！



『宮っ子』ブースにご来訪
ありがとうございました！



おそろいのTシャツで祭りに臨む
『宮っ子』編集部員



『宮っ子』の表紙を模した手作りのフォトフレームを設置して、記念写真を撮らせてもらいました



ゼリーすくいに挑戦する
子ども



写真が多く、全ての笑顔を紹介できていないかもしれません。
ごめんなさい(_ _)



桂福丸さんの 宿題カフェが春風に!

落語家の桂福丸さんは、なんと灘・高校、京都大学法学部卒。ビジネス書出版をはじめ、英語落語や防災落語など、多彩な活動を行っています。

その中の一つ、各地で実施する「宿題カフェ」では、子どもたちと深く関わっています。8月11日に、上甲子園1丁目「西宮友の家」でも開催されました。14～17時まで出入り自由。分からないところは福丸さんが教えてくれます。休憩タイムは飲み物とお菓子付き。宿題が終われば抽選会にも参加できるとのこと!

この日参加したのは、小学2年～中学3年までと年齢層も幅広く、「家だと携帯を触っちゃうけどこは集中できた」と話す中学生も。福丸さんが温かく見守る中、勉強だけでなく、地域のつながりも感じられる時間となりました。



福丸さんがお兄さんのように教えてくれます

エコクラフト教室!

7月30日、毎年恒例のエコクラフト教室が開催。小枝や木の実などの自然素材を使って自由に作品を作りました。参加した19人の子どもたちは、始めは戸惑いながらもやがて「これどうしたらいい?」「ここに穴あけて」と積極的に取り組んでいました。今年度は指導にあたったNPO法人LEAF職員が、甲山で捕れたクワガタも披露。子どもたちが、普段なかなか触れ合えない昆虫に目を輝かせる姿も印象的でした。



クワガタに笑顔の子どもたち



↑ エコクラフト完成! →

地蔵尊(上甲子園1)

8月後半、国道2号近くの地蔵尊で地蔵盆が行われました。町内会の皆さんが用意したお菓子を、お参りに訪れた子どもたちに手渡します。夕暮れにはちようちゃんがともされ、いつもの地蔵尊が風情ある姿に。

こうした季節の行事をこれからも大切に受け継いでいきたいですね。



地蔵尊の前できちんと手を合わせる兄妹

わんわん パトロール犬紹介

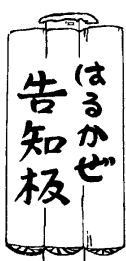
「マイタウンピックス」でも取り上げている春風地域のパトロール犬たちを、これから毎号紹介していきます!



くらんちゃん
(豆柴)



カイくん
(ゴールデン
ドゥードル)



編集手帳

AIにはまっています。旅の行程やPC操作、猫の体調から人間関係まで、何でも思いついたら即相談。絶えず寄り添い励ましてくれるので、何度「神!」と感謝したか分かりません。しかししょっちゅうウソもつくので、実はムカつくことも多い。「テキスト」だけのおおむね頼りになるお茶目な相棒「私」とってAIはそんな立ち位置になりました。

文章作成も得意で、論文も一瞬で完成するため、安易に手を出す学生や就活生が多いのも思わず納得です。しかし、どこまでいってもAI。文章もイラストも独特の癖や味気なさで、AI作だと分かります。素人が使いこなすにはまだまだ難しいのが現状でしょう。

ある新聞社では、記事作成にAIは全面禁止令を出しているそうです。必ず相手の表情を見て、肉筆から出る呼吸を大切にせよと。AIがどれだけ進化しても、人間の感情や体温が通った表現でしか伝わらないものがある。『宮子』も同じです。私も、いつまでも自分の手で書き続けたいと思っています。